

令和元年度 第2回北広島町総合教育会議 会議録

1. 日時： 令和2年3月18日（水） 13:00～13:55

2. 場所： 北広島町役場町長室

3. 出席者： 北広島町長 箕野 博司
北広島町副町長 中原 健
北広島町教育委員会 教育長 池田 庄策
委員 菅川 知由
委員 長田 克司
委員 益田 英樹

(事務局) 総務課長 畑田 正法
総務課総務係長 田村 智行
教育委員会事務局
生涯学習課長 西村 豊
学校教育課長 石坪 隆雄
学校教育課学校総務係長 国吉 孝治
学校教育課学校指導係長 川上 貴志

4. 欠席者：教育委員会委員 甲斐 徳子

5. 会議録署名者：長田 克司

6. 協議事項：

北広島町義務教育振興プラン（教育振興基本計画）の策定について

7. 会議の概要

○開会

○町長あいさつ

○協議事項

北広島町義務教育振興プラン（教育振興基本計画）の策定について

○閉会

(総務課長)

それでは、皆さんお揃いになりましたので、ただいまから令和元年度の第2回目の総合教育会議をはじめさせていただきます。それでは、開会にあたりまして箕野町長がご挨拶を申し上げます。

(町長あいさつ)

みなさん、こんにちは。今日はお忙しいところ令和元年度第2回総合教育会議にお集まりいただき誠にありがとうございます。すでに皆さんご承知のとおり新型コロナウイルスの感染ということで、本町も対策会議等開きながら対処しているところではありますが、まだ完全に収束に向かっているということにはなっておりません。学校の方も今日から時間制限をしながら、校庭を開放することで利用もあると思っている。これが収束に向かっていると、オリンピックパラリンピックな

ども含めてどうなるかという状況であります。経済的には非常に大きなダメージを受けているということでもあります。一日も早い収束へ向けての動向が気になるところであります。今日は北広島町義務教育振興プラン（教育振興基本計画）の策定ということで議題に上げさせていただいております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

（総務課長）

それでは、座って説明させていただきます。議事の方に入らせていただきますけれども、その前に議事録署名者を長田委員さんの方にお願ひしたいと思っております。よろしくお願ひします。それでは議事の方に入らせていただきます。議事の進行につきましては、町長が議長を務めるということになっておりますので、町長よろしくお願ひいたします。

（町長）

それでは、議事事項の北広島町義務教育振興プランの策定についてご協議をいただきたいと思ひます。説明の方を事務局の方からお願ひします。

（学校教育課長）

義務教育振興プランの策定委員会で基本計画を策定させていただいておりますので、その経過について説明をさせていただき、そのあとおおまかな説明をさせていただきたいと思ひます。第1回の策定委員会を令和元年8月21日に開催し、義務教育の現状と課題、北広島町の教育大綱等について説明をしました。その後第2回、第3回、第4回と策定委員会を開催させていただきました。議題を設けて委員さんに色々な意見を言ってもらう形のを毎回2時間程度していただいて、それを最終的にまとめさせていただいたものを今回の義務教育振興プランという形で、かなり委員さんの意見の入ったプランになっております。内容は委員さんの意見を入れたもので充実したものになっていると思っております。最終的に第5回で令和2年2月22日に答申という形になるわけですが、その前に約25日間、町民の皆さんのご意見をいただく期間を設けておりました。その中で3件ほどご意見をいただきました。1件は計画の修正という形で反映させていただきました。あとの2件については、計画案は修正しないが、今後の取り組みに参考にさせていただきたい。という形で整理をさせていただいております。

基本的な考え方を策定委員会の中で7つの考え方を示しております。1つ目は国の計画を参考にしながら町の実態に即した教育の振興の基本計画を策定していく。2つ目は平成29年度に学習指導要領が作成され、それを踏まえたうえで北広島町で学ぶ育つ子どもたちにとって大切な教育の方向性や方策を議論して計画に入れたということ。3つ目は第2期北広島町長期総合計画あるいは人口ビジョン、総合戦略と整合性を図って計画をしたということ。4つ目は平成21年度に策定した義務教育振興計画を踏まえて課題と成果を出し合って計画をした。5つ目は長期総合計画に基づいて重要な位置づけをした。6つ目は今後の児童、生徒が減少していくことが予想されるので、老朽化する施設の今後の方向性を踏まえながら学校の適正化規模、適正配置を議論し計画に入れた。最後に本計画は基本的な方策までを示しており、その実現に向けた具体的な施策の計画、実行については、教育や社会状況を鑑みながら行ってほしいということがありました。それから計画の期間ですが、令和2年度から概ね10年間としますが、教育や社会状況の変化に応じて計画を見直して欲しいということで答申がでております。私の方からは以上説明をさせていただきましたので、これからは

基本計画案を担当の方から説明をさせていただきたいと思います。

(学校指導係長)

(学校総務係長)

第2次北広島町義務教育振興基本計画(案)について資料をもとに説明をする

(町長)

説明をしてもらいましたが、皆さんの方からご意見、質問等あればお願いします。

(教育長)

このプランは前回のプランに基づいて現状をしっかりと把握しながら、「体徳知」という言葉がありますが、学校でスキーの事故があり、大事な児童の命を一人失っています。それを原点にふるさとを大事にし夢をもつ子供を育てたいという想いでプランを作っていたらいいなと思っておりまして、委員の皆様から非常に熱心にご意見をいただいようであり、情熱のこもったプランになっているのではないかと感じておりますので、ご意見をいただいて実行に伴うようにしていきたいと思っています。

(町長)

基本的な計画の中で具体的な施策等も展開されるのだろうと思いますが、最近で言えばICTの教育の関係、様々な課題も含めて進むということになると思う。英語の教育の問題など現場では大変な面もあると思われます。時代の流れもあつてできる限りのことはしていかなければいけない。

(教育長)

町長にできる限りのことをしていかなければと言っていたことに大変ありがたく思っております。学校ICTもそうですし施設整備もそうですし、適正規模というのは北広島町では中山間地域の中では適度な進捗状況で適正配置もできているし、前回は一クラス30人であったが、これからの児童生徒数では無理なので、ある程度少なくとも頑張ろう。学校では一学級10人、小学校でも一学年10人があったりしている。

(町長)

今年度は少子化が進んだ形になると思われるが、確定ではないが北広島町で今年度生まれた子供が約70人程度になる。だいたい直近でも110人とか120人という出生だったが、今年度は極端に少ない。千代田も40人程度、芸北大朝豊平も10人を切るという状況。非常に危機感を持っている。これが継続するようなら深刻な問題であると感じている。

(長田委員)

働き方改革というものが学校現場のみならず企業の方もどこでおさまってくるか、法律どおりに今やっているが、まだまだ予断を許さない。ひとつ間違えると楽になったと感じ、物事が本末転倒してくる。教育現場でもそうなるのではないかと感じる。ICTやAIが進んでいくほど人間力が必要になってくると思われる。ふるさと学習とか特色のあるところを地方での助成が一番大事なところに

なると思われる。企業にとっても休んでもすることはない。学校現場も同じであると思う。中山間は予断を許さない。

(学校教育課長)

ふるさと愛とかふるさとでいろいろ学んでいって欲しいという意見が多く出されました。

(長田委員)

これしかないと思います。そういう面では今いい教育を受けていると思います。

(教育長)

適正規模のところで言ってなかったのですが、中国地方の教育長会で、小学校では30分以内でのバス通学にしようという考え方にしないと人数は言ってられない。人数を30人集めようとしたら、みんなバスに乗せなければいけない。

(菅川委員)

コミュニケーション能力の育て方、5年先を見据えていく。そのために何が必要なのか。学校教育にしても学校のあり方にしてもそこを考えた配置とか、それが適正配置になってくると思うしITの活用についても考えていかないといけない。

(長川委員)

法律でくくってしまうから地域の特色が出せない。

(菅川委員)

これからどう具体化していくかだと思う。

(益田委員)

グローバル化、情報化、ここらへんに目が行きがちになると思われる。IT環境を整備したり充実したりするとどうしても経費がかかる。タブレットなどを保護者負担にするとかで保護者も気になることもある。そちらの方を進めていかなければいけない反面、ふるさとに愛着を持つ、アイデンティティを持たせるような教育が必要であると思います。

(町長)

ふるさと学習という部分では小さいときから自然の中で遊ぶ、その中で友達を形成していくというようなことが相対的に足りてないのではないかという気がしている。そういうのが大切ではないかと最近思っている。田舎で育てて知識としてすばらしいとわかっている、山に入ることも川に入ることもほとんど経験していない、田舎でもゲームばかりしている。そういう環境で育つことも必要であるが、小さいときにもっと自然の中で遊べるような環境がいいような気がする。意識的に取り入れていく必要がある。

(長田委員)

義務教育のできる範囲の中では、家庭でのしつけは家庭でということをして先生も言うべき。そこが欠如しているから集団に入ったときにうまくいかない。小学校時代には先生方が教育の一貫として伝えることも大切と思う。

(教育長)

近年は子供は意外とクール。コミュニティスクールの推進に保護者の力をプラスするために地域の皆さんの協力を求めるのが裏側の目的である。学び塾も含め親の力はすごく大事なところだと思っている。

(町長)

最近では発達障害については改善しているのか。

(教育長)

不登校なども近年では一定程度の条件が整えば学校は出席扱いにするようなことになっているため、個々のニーズはばらばらであるため色々な対応しているという状況があります。

(町長)

対策も考えてもらっていると思うがまだ体系化はできていないのか。

(教育長)

ルールはあるが、ルールの専門機関へ行っていただくまでのスタートがなかなかできない場合が多い。

(町長)

保護者の同意がないと進めない。

(益田委員)

北広島町の教育がどういう風に進んでいくのか町民の皆さんに具体的になっているものであるから必要なものだと思います。

○閉会